



貝譜

泰山 泰山 泰山 熊谷

熊谷 熊谷 朽木

庫文閣内			
共	三		和
函	三		書
一	一		
〇			
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(112)
函號	156 17

界譜

河

泰山 齊鴻 齊原 然谷

然海 然念 朽友

二百十一册

庫文閣内			
共	三		和
函	卷		書
架	冊	號	類

共
五

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(112)
函號	156 17

大岡秀吉より江別長濱より一層
後大和へ向ふ秀吉と一層一秀吉
其後徳國尾尾城と改むるは先重と
○但し其竹田城より二百石と納りて
十一年秀吉在幕府時家と合戦の
時江別城の蔵の世と改むるは
ちりと動印ありて江別和
ふりて二百石と改むるは
城と改むる○此地全義の自り

高石より一層長より威威と納り
○其後江別城の蔵の世と改むるは
のそは依りて大石の書と初重
〜秀吉より一層長より一
百石と納りて其後長より一層長
江別城の蔵の世と改むるは先重と
又一時江別和納りて城と改むるは
讓二層長より一層長と改むるは
其後と白雲の二層長と納りて一時

より甲子年より乙未年二冊之積より二
千石を合し二万石を以て家業を以て
の料として○書長六年国より京師
の内紅別ノ押作片も是れ種々種
川内家より書はる

東照公より河書法中と修理を以
りより実々東江渡の時修理を以て一
晴新文の城と塔門河渡と改る
と此法中和秋心の煉成と此の

名徳は教よは惟子ありは法中家
法の小田吉楽城と河書成下り
○書
十月廿日死す
歳京書師大徳守地中清泉
守の書

右和太領と秀長と唐傳と國行
田城とて壬辰十年四月下六日
二十六歳

一重編子
修理吉吏 和 出書

一晴

文禄年中とる幕陣の時如右たる物
右堂佐治清とて大は朝鮮とて海
一書取とて自ら身別の御とて
と書とて秀長とて一書とて

秀長元年一和文法取たるは幕陣の時
時和別和秋とて城取とてと書
日本之内十百叙將修理吉吏○
日本一和別とて他の一和起とて
秀長一和別とて城取とてと書とて
加治とてとて一和法とてとて日本
関ヶ原陣の時

東照より和別とて押作とてとて一和

名の清書因縁の園が東敗の
元紀紀元新義城之塔日河河を
攻めざるよことん修程を事ありし
田子城之松志之殿以由人作作は
法平の和歌の城と守修程を事あり
友を事あり軍にいく攻めし城あり
彼も城とありあり人師一奪海系
しつと新義平の城とあり日六年初
山の城海師左事ありとあり一晴

初別首中初布設に移るの月九
年二月廿八日死す二歳日守
小舟

左衛門佐 和久

一直

一晴猶子

崇文天皇元年

東照天皇の御代二十九年

同六年閏九月庚申の時に河津藩より
兵を遣はして勤王の旗をたてしむる中
藩を捕らふに加らるる大谷刑部
一直 河津藩に人討てし首領 上流
河丁一付
東郷文清前より兵を遣はして勤王の旗
をたてしむる中 河津藩に人討てし首領
上流 河丁一付
河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流

たてしむる中 河津藩に人討てし首領
上流 河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流
河津藩に人討てし首領 上流

法皇を今余のまゝ二万石を存せ給
こと好相御布施のまゝ新大工を
○日本九年大坂を陣有る和
泉守お使に定らば十月廿八日新
大工のけいれい御陣口廿九日
参内紙一紙陣中候より家人
一様におしよる御を紙に二階并
五の旗をく御一果書紙のつた
坂の家の時左馬侍王と守に二

あまは信并と御竹花と御深まを
御信目付中監視をころの口廿
年廿亥陣中御日向守お使育
六日御道御守表一御法の時御
今そそ七の御守を御一御守御
は御自身の御と御と御守日七日
御城の御守御守御守御守御
御守御守御守御守御守御守御

之石乃軍政と勅柳より席の
寛永十二年八月廿一日卒九条
廣尾祥云寺一拜

修仁亮 幼存

一云

和史

寛永二年朔初十日午十一
月廿日叙爵○日十二年朔初
三日午十一日柳より席○日午四

一云

年十二月廿一日和史より
在告○山保元年朔初五日
皇親御禮より初二年丙午
元年丙寅府○寛文元年丙
日見河社系の時日見法住所
坊城大納言池之○日十年朔
今歳辛酉相池之及○定宗五年
八月廿一日夜仕二里甲斐守に就

○貞享元年二月七日死七柱曰
威麻布天志寺一拜

一冊

弟作也 和 一冊

○定宝元年家信抄和紙新法を
干石柳らる席○同年十二月廿日
叙爵○定宝七年二月水口城を

○天和二年二月廿日定宝満
○定宝を及ぶ教し
○教者定宝の法會の時二月廿日席
○致すく定宝ら病ひ定宝の定宝
○定宝を及ぶ教し
○二月廿日定宝ら病ひ定宝を及ぶ
○二月廿日定宝ら病ひ定宝を及ぶ
○法會の時定宝の定宝を及ぶ
○定宝を及ぶ教し

正徳寺に技師来り首領と稱す重
定に在座海州の二に後より御
才之所在為多和二人と云り同
二年有千五百元之田中在寺
葬

甲斐守 初百助我知

言道

後改一慶

二所在焉

寛文六年八月廿八日此地を以て

石分今も正徳二年有

最者流御正徳寺に在り家口

少海申納云此地を以て是等

作有と云り七月七日御願

と云り最者病うりて父修理之

と云書御の二所在焉是の代

と云初も是等かは父修理之

政仕の事と云り是等御の事

く日月の如く之序古き名に人
多し原か其言もく多し其の如く
下より多し其言もく多し其の如く
○元禄五年四月廿一日出使あり
布衣の日本初日見し其言もく
十年八月十二日政府官員あり
八月廿九日河府の日本初日
宵寝あり其言もく多し其の如く

江戸の日本初日八月八日大坂
付の日本初日八月廿九日
又日府府の日本初日八月廿九日
日本初日八月廿九日

文無量あり其言もく多し其の如く
○寛永五年四月廿一日出使あり
日本初日八月廿九日
年四月廿一日出使あり

此の事行○二徳之元年二月廿日
去坂町事行○同二年二月廿日
系府收養○同月、病死○享
保正元年八月廿日死六十八歳麻
布天真寺小葬

一信

初一郷

二席在事 初百物

正徳二年二月廿一日初百物○享保

十三年十一月廿日家務事人信寛
保正元年十月廿七日死享年五歳
因寺小葬

一 道

修記 初百物

寛保元年十二月廿七日家務事
信○同二年二月廿日初百物
享正元年十月廿一日死享年五歳

○寛政三年十二月廿七日病歿○
○同二年八月廿日病歿

左馬 初百物

云穀

左馬

明和三年八月廿日病歿○
同年十二月廿日病歿○
同二年八月廿日病歿○

同二年八月廿日病歿○
同二年七月廿九日病歿

左馬 初百物

胡亥

寛政七年七月廿九日病歿○
同二年八月廿日病歿○
同二年八月廿日病歿

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "敬啟者" (Respected Sir/Madam) and "謹啟" (Respectfully).

嚴有院做清代



素心

三子石

者京姓

家波括復
孝相

素心修理亮一云之曾

九月 初五

一英

延享元年八月廿八日知子心奉

命○天和二年育

数有洗殿之面行念法今の時系如
乙卯地之役先皇御幸お幼有旨
江津殿より御病うつこ月日奉
上之深如御言も是く是之御病と云
松舟入御幸と云作と侍人言出と
是之御病と云病御言と云御病と云
是之御病と云人言御病と云
礼之御病と云御病と云人言御病と云

之福六年十月廿二日死す
麻布天皇の御小葬

源七郎 波仕 徹源

一規

實業山修程亮二五三
之福六年十二月十日養子御小
葬法門七年十月廿二日初七日
十二年十一月廿二日心性組十月十

六年十一月廿九日清原公實信卿
 の室水元年十一月廿八日重信公
 へりて清原信公の病時後之而飲
 口口之年十一月廿九日信公同年
 十二月初布衣の口口年八月廿九日
 只性但多口。重保八年八月廿九日
 病先の之文元年十二月廿九日信公
 口口年八月廿九日信公同年
 壬午

一兼

壬午 初武次郎

重保十一年二月廿九日初元の元
 文元年十二月廿九日信公同年
 二年九月廿九日信公同年
 壬午

一新

在何 初授

吳場田國昭正法二會

宝曆十一年二月十六日拜其官子。

本水口年十二月六日自家曾山書清

○日年十二月十八日初九日拜

二月六日^鬼宗性組の天保七年十二月

十日死年七歲日年一壽

一充

在何

實場田國昭正法二會

天保七年十二月廿九日拜其官子

曾山書清の口以八年二月廿二日初九

○宝曆七年十月十六日宗性組の口

八年十二月十日初九附の口年一

二月十七日初九附の口年一

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a date "1. 1875" and several lines of illegible characters.

東照宮御代



素心

友京姓

子部子石

彦彦 控 獲 五 桐
蛇目

素心治政の法京重晴の旨

左を交

貞晴

大和太綱の長長に和列のく部子
又百石の小田京陣の時り

東照宮より書はりて其の書は本年紀列新
 文の故に皆内河波とて書し
 作と書し修理を以て一階ありて内河
 城之松木之殿及び人々を責め
 河波とて城と明く降るるとの古伝り
 傳ふも世もとの寛永九年七月
 月七日死す年之歳相列澤会建
 去守中一 天源卷之三

東照宮より所書相伝

負頼

作在書り入在程存

傳詳あり

内通

自利

慶長十三年 烈治府

實貞胎記

寛永十三年十月廿七日先死云来
朝吉子の胎計り人の日十三年十一
月廿一日見を飲む由言ふ人の
初別高と高下五部より或名
自及りらる。○日十六年二月廿日
初見。○日十六年六月初見皇書院告
日二十二年二月六日おの宿吉清所
○老女之元年初見の宿吉換り

○日二十二年二月廿七日東敵の津宮造
宮吉行。○康徳之元年九月廿日
妻別吉清の同月。○以暦之元年二月
又日江戸中屋海到。○日十六年七月廿日
日使の屋海到の由り免初。○日十六年
十一月初見布衣。○万治二年二月廿
八日妻別他卷同月。○寛文二年
七月廿一日見の同月。○日二十

正和二年正月廿五日
月五日里之山日守月○日本十月
日初九日被損用外○日本十二月
五日里之山日守月○日本二月
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日

正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日
正和二年正月廿五日

又曰死公年八十八歲以守小節

德意心 壯節志 志麻也

元相

初貞代 政位 紹惠 式部

明曆三年十一月廿日初子守家
二年六月廿六日出家性理
元年七月九日出家
七年七月九日出家
七年七月九日出家

二月廿一日由京城到後
又曰度者
貞有
祿之
二年十月
又年
八月十九日
年二月
廿八日

十日叙爵此節より日守中平八日
八日待閑次の西徳元年二月十一日
奉行の喜保元年十月七日老免
合の日守中平八日待閑次の西徳元年
日守中平八日待閑次の西徳元年
天真寺の事

元
下野守 初在門 松多志
母道也

実日姓の叙直晴二重
元禄元年十二月六日
介の家永六年四月
西徳元年九月六日
上の日守中平八日
日守中平八日
年十月廿六日
有章院の事

十六日壽全の日本十二月五日
 發の宮保六年一月五日家督の
 日九年一月五日京任組五以の月
 十月五日二九附の日本二年二月
 而九月書院書祖以の日本十年十一
 月十八日禁裏附の日本十年初叙
 爵母後宮の元文六年一月五日
 以待号以の定宮之元年九月五日
 而九月宮の在の嘉慶二年一月五日

江蘇省行の日本十年十月五日
 先の宮の日本十年十月五日
 又歳以の日本十年十月五日

△多事七年
 十月七日
 多事十五年
 十月十五日
 多事二十年
 十月二十日
 元陳
 △
 元初

古波印
 德高 初程十郎

實月屋之水正清之書

享保十一年四月五日
 享保十一年四月五日
 享保十一年四月五日

日月五日初見。同九年二月十八日
西元書院番。天以元年字有
大日

若君附。同六年字。月廿一日半
人。以。日。年。十。二。月。八。日。布。衣。○
改。年。一。月。又。日。合。名。務。依。年。○
日。八。年。九。月。又。日。合。名。○

之長

保吉 初一日

寬政六年一月八日初見

東照宮御代



素山

有系姓

家茂

陰指授
松岡

高千石

素山修理左衛門重晴次男

伊和守 田 長三郎

之晴

北堂長家子信隆

東照宮御代素山長年宗系

子陣の時石高、決地以組行
和列高、敵のころ、或も石と集
物もころ、○日本父よりまきり名紙分
○父は石高、敵はの時法、あり、病、決地、行
を、又、より、石、あり、え、時、高、ま、ま、あり、又
ころ、より、石、あり、え、時、高、ま、ま、あり、又
死、その、ほ、あり、え、時、高、ま、ま、あり、又
百、あり、え、時、高、ま、ま、あり、又
石、高、ま、ま、あり、又

〜〜〜法、高、ま、ま、あり、又
か、〜〜〜法、高、ま、ま、あり、又
別、の、ま、ま、あり、又
加、合、高、ま、ま、あり、又
○中、高、ま、ま、あり、又
ま、ま、あり、又
の、ま、ま、あり、又
助

石高、ま、ま、あり、又

台徳院殿之福也 深澤正家
有之此年又少くも常陸守
事より會場と稱ふ○之和七年
七月廿日死に於て其子台徳院
子孫

法晴

普菴 初又合所

和宗國少くも方石以の地都府

貞晴

加南寺 礼三殿

之和七年初に家督○日九年八
月廿日叙爵○寛永六年九月
廿九日死に於て其子山崎
嗣子より家断候

榮晴

之水

寛永七年六月八日
 知収せしむる係りしと申す初は
 名傳後殿より申す末の服指
 大敵後殿の感念の力と申すか○

寛永十二年十二月
 〇年月
 一信の如思しむる事
 教名の如し
 善入係りし事

初之公侯伯子男五等侯爵文
○兼惠之元年六月廿六日乙卯
○省安七年十月廿六日乙酉
○延宝七年二月十一日乙卯
相名孫念建長守中乙酉
仁壽

二日殿 初十殿

直晴

省安十二年六月廿六日乙酉
延宝元年八月廿八日乙酉
○七年初十日乙酉
○天和元年
八月廿七日乙酉
○貞享元年
八月廿六日乙酉
○享和元年
八月廿五日乙酉
○元禄元年
八月廿四日乙酉
○元禄二年
八月廿三日乙酉
○元禄三年
八月廿二日乙酉
○元禄四年
八月廿一日乙酉
○元禄五年
八月廿日乙酉
○元禄六年
八月十九日乙酉
○元禄七年
八月十八日乙酉
○元禄八年
八月十七日乙酉
○元禄九年
八月十六日乙酉
○元禄十年
八月十五日乙酉
○元禄十一年
八月十四日乙酉
○元禄十二年
八月十三日乙酉
○元禄十三年
八月十二日乙酉
○元禄十四年
八月十一日乙酉
○元禄十五年
八月十日乙酉
○元禄十六年
八月九日乙酉
○元禄十七年
八月八日乙酉
○元禄十八年
八月七日乙酉
○元禄十九年
八月六日乙酉
○元禄二十年
八月五日乙酉
○元禄二十一年
八月四日乙酉
○元禄二十二年
八月三日乙酉
○元禄二十三年
八月二日乙酉
○元禄二十四年
八月一日乙酉
○元禄二十五年
七月三十日乙酉
○元禄二十六年
七月二十九日乙酉
○元禄二十七年
七月二十八日乙酉
○元禄二十八年
七月二十七日乙酉
○元禄二十九年
七月二十六日乙酉
○元禄三十年
七月二十五日乙酉
○元禄三十一年
七月二十四日乙酉
○元禄三十二年
七月二十三日乙酉
○元禄三十三年
七月二十二日乙酉
○元禄三十四年
七月二十一日乙酉
○元禄三十五年
七月二十日乙酉
○元禄三十六年
七月十九日乙酉
○元禄三十七年
七月十八日乙酉
○元禄三十八年
七月十七日乙酉
○元禄三十九年
七月十六日乙酉
○元禄四十年
七月十五日乙酉
○元禄四十一年
七月十四日乙酉
○元禄四十二年
七月十三日乙酉
○元禄四十三年
七月十二日乙酉
○元禄四十四年
七月十一日乙酉
○元禄四十五年
七月十日乙酉
○元禄四十六年
七月九日乙酉
○元禄四十七年
七月八日乙酉
○元禄四十八年
七月七日乙酉
○元禄四十九年
七月六日乙酉
○元禄五十年
七月五日乙酉
○元禄五十一年
七月四日乙酉
○元禄五十二年
七月三日乙酉
○元禄五十三年
七月二日乙酉
○元禄五十四年
七月一日乙酉
○元禄五十五年
六月三十日乙酉
○元禄五十六年
六月二十九日乙酉
○元禄五十七年
六月二十八日乙酉
○元禄五十八年
六月二十七日乙酉
○元禄五十九年
六月二十六日乙酉
○元禄六十年
六月二十五日乙酉
○元禄六十一年
六月二十四日乙酉
○元禄六十二年
六月二十三日乙酉
○元禄六十三年
六月二十二日乙酉
○元禄六十四年
六月二十一日乙酉
○元禄六十五年
六月二十日乙酉
○元禄六十六年
六月十九日乙酉
○元禄六十七年
六月十八日乙酉
○元禄六十八年
六月十七日乙酉
○元禄六十九年
六月十六日乙酉
○元禄七十年
六月十五日乙酉
○元禄七十一年
六月十四日乙酉
○元禄七十二年
六月十三日乙酉
○元禄七十三年
六月十二日乙酉
○元禄七十四年
六月十一日乙酉
○元禄七十五年
六月十日乙酉
○元禄七十六年
六月九日乙酉
○元禄七十七年
六月八日乙酉
○元禄七十八年
六月七日乙酉
○元禄七十九年
六月六日乙酉
○元禄八十年
六月五日乙酉
○元禄八十一年
六月四日乙酉
○元禄八十二年
六月三日乙酉
○元禄八十三年
六月二日乙酉
○元禄八十四年
六月一日乙酉
○元禄八十五年
五月三十日乙酉
○元禄八十六年
五月二十九日乙酉
○元禄八十七年
五月二十八日乙酉
○元禄八十八年
五月二十七日乙酉
○元禄八十九年
五月二十六日乙酉
○元禄九十年
五月二十五日乙酉
○元禄九十一年
五月二十四日乙酉
○元禄九十二年
五月二十三日乙酉
○元禄九十三年
五月二十二日乙酉
○元禄九十四年
五月二十一日乙酉
○元禄九十五年
五月二十日乙酉
○元禄九十六年
五月十九日乙酉
○元禄九十七年
五月十八日乙酉
○元禄九十八年
五月十七日乙酉
○元禄九十九年
五月十六日乙酉
○元禄一百年
五月十五日乙酉

少つて授受○之流二年二月廿七日
 相方の書○日年一月十四日
 ○日年十月廿日小普請今日年
 二月五日宗性理○日年
 米と糸地と換物○日年九月十八日
 火事防備費新御所○日年
 と物○日年二月廿八日
 西徳元年八月廿日死○日年
 唐徳元年梅雲院○日年

系水 一〇〇番

孝晴

室永六年四月六日書院書○日
 年十月二日中書院書○日
 十月廿一日家書○日
 翌日出版○日年十二月十八日
 ○元亨六年十二月廿七日死○日

同守一壽

安晴

求

海一也

享保九年

秋

九月

年八月 甲戌 日午 又年十二月 五日

死十八 某日 年 某

定晴

頼母 初 源 助 之 殿

実日 姓 源 七 郎 一 親 三 郎

享保十六年 一月 日 某 某 子 日 午

七年 十二月 日 初 日 某 某 保 之 年

二月 日 某 某 某 某 清 之 定 晴 四 年

二月 十六 日 某 某 某 某 元 年 日 月 日

有 死 六 年 七 歲 日 午 某 某

皇紀

神代卷

昭和

実河御世書事通考

寛保五年八月二十日吉子御定事

宝暦二年二月二十日家康御山宮清月日

月十九日初人の御定事之元年二月

女旨

有徳院御附出性祖の家曆之元年

七月十二日山宮御入の日二年四月

廿七日為凡出性祖の日十五年八月

之百廿九初の日十五年十二月各

西元附の如永八年四月十六日山宮

九初の王命之元年八月廿六日西元附

日三年三月廿七日山宮九初。

寛政七年七月八日老中全三夜場

同平年八月十二日死七拾二歳
同平年八月

晴喜

辨名

本水六年七月十日初九書院
書院寛政元年十月十日少松
川色江休与多村向口女官時後

之存依口日一年八月十日
初口日七年二月十日少松
院口日八年十二月十日初九
初口日十年七月十日少松

寛文九年十月紀... 永性○定... 石... 十月... 喜保之年に日書

有徳院元... 費... 〇日年六月... のれく...

將〇日二年... 〇日年六月... 十二月... 〇日年八月... 死七...

通政

内田氏 初文為 豊前守

實丹治江伊極臣作末末利惣政

天子の之縁去年六月の紀別を末

姓の喜保之奉六月の事江戸に

口月古旨也味

信信院致清親を七月八日大目録附

出遊○日年七月廿二日致得書前書○

日七年七月廿二日致得書前書○

汗和の公家等一々時迄迄の作と家

の月八年八月廿二日致得書前書○

日年八月廿二日致得書前書○

汗和の公家等一々時迄迄の作と家

の月八年八月廿二日致得書前書○

汗和の公家等一々時迄迄の作と家

十二年二月廿一日

信信院致清親の海陽に在りて

時暇二存候○以今九年九月廿八日書九
百九

情信送致付物とく精初加致古百石○
同十八年九月廿六日書西九百石由以真
義常○同日二十年九月廿八日書古生石
あり今日の日船と物或別社を所
我是十月十日席末の病門を病とくえ
文之年八月九日病中の時出候後也
毒氣有りくは誤命とありては
病丸もくは後致はくはくは百石を病丸

はと子仲勤の故長子に後は兄弟に連
りて候に候とく思ふに○皆仁保二年
二月廿日死すに云ふ山日向日病とく事

因通 初春を節

改票

寛保二年一月廿日書古百石
二年九月廿日書古百石
月廿七
有徳は成濟中納言○同九年七月廿二日

并合の四松四年九月廿六日小督細井
百助を毎佳行院より召留賜し御書
の事しうしと云知は年十月廿日教
永正八年八月八日信成は日六年
山に依りて云の之年十月廿日
組替の日は六年十月廿日
官の改定年九月廿五日
七年十月廿五日火之精の時
公年十月廿七日病死の日は
死す年十月廿七日

種柄

改虎

宝曆十一年十月廿七日
九月廿日
孝養院教書人
二月廿七日
火之精逃延
乙亥

[Faint, illegible handwritten text on the right page]

敬有院殿中納言



素山

有東院

高白手指儀

殿致九月指授
三條白菊

先祖石像

二所立場

元重

行國漫少之出府定宝三年九月
三日也迄平儀少人持持の並永七年
定八月十九日組立致是系八指儀也

馬醫道由吟味之上敷書類法云云
元和三年紀列々々只百名以下大書組
○同年石知天下つて繪首由信々下○同
又年

右徳院殿清上洛々右南院院殿信々
同年八月十五日伏見々々々

信豊

治吉史

紀藩々々々家督大書組○天和三年
十月廿八日紀列々々同不院信々
く是々々

豊重

治吉史

天和三年紀藩々々々書々々書
組々々父何の々々々○元禄五年六月
廿日紀列々々同書

豊秀

治吉

豊秀

父死後幼少月来地御り守十五人
扶持下此属々々童子組○至永六
年仲より番唐米四千石下○享
深元年右兵衛尉殿托守御所
唐米二百石下馬醫術師下○同
病欠同年十二月廿五日致仕○同十三

年五月八日死駒也勝林寺に葬る

豊昌

治吉

豊昌

享保七年八月薨す○同十年十月
廿八日死唐米小普信○同十二年十二月
十日右兵衛尉殿近習為○元文五年
十月廿日死同寺

豊寛

新七郎

元文五年十二月廿三日家持。○寛喜
 元年十月廿五日。右衛門督殿近。○寛
 ○同三年十月廿五日。小次郎殿近。○寛
 ○同五年五月廿五日。右衛門督殿近。○寛
 寛延四年八月廿七日。病歿。小曾孫。○
 昭和九年四月二十七日。葬。同。○

信昌

治吉

福助

昭和九年七月八日。家持。○

東照天皇御代

宗重

後原姓

言二百俵

家紋

上後角宗
丸と桐

先祖不詳

九近

宗重

上校輝虎ノ仕後浪ノとあり天正五年

東照天皇ノ御代に馬醫役ノ事

長平年閏乙未出伏。○同六年十月
十七日於伏見死

宗勝

尤近

大猷院殿冲代出馬醫校。○延暦二
年十二月十日死。五十九歳。葬于
新院(并)

宗次

尤近

教有院殿冲代家督出馬醫校
○延暦四年五月廿八日死。四十二歳。葬
于天祿院(并)

宗景

内苑之助

實。堀江村在。其子貞次(男)

延宝四年十二月安徳寺山馬醫役○
貞享四年十月廿二日徳政役人山藏女
月小若重徳○宝永五年十月廿二日
政任○正徳元年十月廿九日死五千
八采同寺○

持流

伊左衛門

宝永五年十月廿二日家督小若重徳

貞享十七年十二月九日田安近衛重徳○
延享四年四月朔日同不任以○宝曆
九年十二月朔日老免同月八日讓令
一板○同十年十二月廿九日政任○同
十三年八月十一日死八十二采同寺

持古

元吉郎

宝曆十年十二月廿九日家督○昭和

六年八月五日即位。天保七年五月十八日死。享年四十九。同寺。

持昌

民之助

實河原七左衛門四郎三男。天保六年八月五日即位。天保七年十月五日死。享年十九。同寺。

持晴

富三郎

實石濱左衛門三男

寬政七年十二月廿七日卒。享年四十九。同八年十二月廿七日。初見。

東照宮御代

 奉鶴

氏名

高二百俵

藤原姓

家紋

紫巴

長平信濃守昌子後胤

加藤

正重

長平同通氏

 正重

天文二年野村中於家
の付正重所守於家於
我死三年之葬

正親

豊中権及守

天正十三年八月廿日小田原水原と戦
別当頼家と取合し所正親所守頼家
息九郎照富信四郎正富おた
野州皆川とく合我照富正富頼家
同十三年正親園東より上洛豊後
秀吉築山あり均陣し所お杉川

去度秀吉と備中後野州権首頼
因とくお成三子三百六石秀吉分
御と同日十八年外孫権首久吉那義
保為養子同年十二月十三日成徳と
譲り去り七年八月九日正千五集
別当首末泉心月心後正守頼

女子

壇名日向子義通妻叔有之壇台祭
乃作

照富

長平九郎

天正十三年八月廿七日除之字起系
長平之付お世別家門我元二千一第
日寺

正富

長平清四郎

兄之在小孩元十九第同子

義保

長平之月 久之郎

突壇名日向子義通 男
天正十八年母方祖父長平備後守正親
吉子之同子同年十二月十三日安葬

同年秀吉より獨り長三年於大坂
東照文に拜謁の日也

台徳院殿に拜謁○同日長上校系統

送心之付

東照文に對し小山を以て所出馬之付

少少陣下より山目見御所あり皆

川に渡りてある大田系に城勅書に於

て之を以て之に後佐竹義重羽別林

田、水野之長岩城等と云ふ事也○

相する者門より少及易に長萬石より少

牛紙、牛紙の事也○**西書**にあり長門守

長石尾下月牛紙と云ふ事、相後江戸

尾出下云加林にて五百石と云ふ

○里見安房守少及易に付内友左守

助組の序別と云ふ事○大坂あり陣

の事ハ事多佐渡守組にて佐左落城

の時ハ波形と云ふ事落人首二千余級

云々判極○体見と云ふ事○長上源

五郎出改易... 日
根好儀... 所... 何... 城
書○甲府山城書○寛永十八年十二
月廿九日... 六... 同寺

義改

是年同院助

寛永八年正月十日... ○同十九
年正月十日... ○同年日光山

清和元年大田原... 楊荷
河原... ○正保元年九月... 地
石上... ○元禄
九年正月... 死... 院

是年新助

経後助

保忠

兄弟... 地... ○大坂... 陣
... 忠... 地... 院

修其首級多討之、日成、負平金
の故、如佐、酒、持、家、之、

東照文

台徳院殿上拜謁。寛永二十年、月
廿七日、死、六、十、五、歳、同、

忠清勲名

忠清

大坂、西、清、陣、之、時、父、之、方、亦、中、多、往、後、

平金、之、後、父、同、族、
平金、之、後、父、同、族、

東照官

台徳院殿上拜謁。如家、同、族、助、家、

涉智、中、西、飛、騾、等、上、其、古、歌、不、三、月、野、別、

奥、別、之、同、之、本、之、り、の、元、禄、元、年、

四月、廿七日、死、六、十、五、歳、法、号、本、國、寺、

了、華、也、

忠直

保元二年是より兼侍

兼侍新左衛門

新左衛門

致仕宗貞

兼侍元年馬御馬醫と元祿田内殿
元祿公馬方馬醫在命せり是原
米百俵と納入○延宝八年五月七日
元祿九年○天和元年六月晦日也
具御領○同年八月七日也馬并也

元祿○同三年九月三日加授百俵
元祿方並り一納入○元祿二年七月
又日致仕○同三年八月十日死八十
口兼同也

忠久

新左衛門

新左衛門

常憲院殿沖代也方馬醫在
元祿米百俵十石八拾石下○元祿三

年七月又日求督志より志る美也る同
亦既文時の下。○享保元年十二月
廿八日死七十三歳同寺。

忠陳

新助

元禄二年七月又日文祿元徳の言百
俵十又人杖杯揚り馬醫見智○
享保二年二月廿日家持志馬

醫方○元文三年二月廿日死七十三歳
同寺

忠査

忠査 百三郎

実忠之五男

享保十六年七月十日新起
亦右第一生。同康米百五俵納り
○寛保三年十月四日死同寺讞絶

忠純

新左衛門

実忠久二男

寛永六年十月十六日薨す。○同七年
四月十九日初見。○享保元年十一月六日
子賢見智。○同八年十二月廿八日湯
杖持方十五人。杖持下。○元文三年
五月四日家持馬醫方。○寛延三年

二月廿日死。七十歳。同寺

忠真

新左衛門 左衛門 徳六

実忠陳男

享保十八年四月八日薨す。○元文四年
十月七日初見。○寛保三年二月晦日
馬醫見智。○延享四年十二月十二日
湯杖持方十五人。杖持。○寛延三年八月

月之末家名馬醫○天保六年九月
二日死年五十九同寺

忠順

新方名

勤王信

実拾末重理某二男

明和元年十二月廿日名養子○同二年
七月十八日初見○同九年七月八日馬醫
見習○同八年九月廿三日十五人技師

下○安永二年二月十日名死同寺

裕

吉郎左衛門

初維嶽

清水醫師

実 横尾道益英貞三男

安永二年二月晦日年廿五○同寺
十二月廿三日初見○同四年四月七日馬
醫見習○同八年七月九日十五人技

持日天保六年十一月七日家傳馬醫

忠實

新助

吉太郎

寛政三年三月廿二日初見。同五年
十一月十日馬醫見習。同九年十月
廿日十五人扶持云々

有徳院殿清代

同 業鴉

言五百名

藤系姓

家紋

有徳院殿
四ノ女也
竹三雀

此傳家臣業鴉在七郎改凡想所

政周

肥後守

在在

紀清... 津島院殿清用人。享保
三年五月朔。紀州より二馬、由信
月十日。米地五百石と納む小納戸。

同年十二月十三日此別々々々海軍院殿、
年久にお勤仕の功と云々叙爵の旨深
八年九月廿八日死回宮長戒約と云々

改恒

肥後守 三郎左衛門

実平并助左衛門改務之旨

正徳四年十月廿六日年告旨云々○享保
三年十一月廿二日初見○同六年八月廿六

同八年十一月廿六日改務○
同七年七月廿二日告旨○享保三年六
月十二日此定手紙宛宛○同年十月
十二日大所盗賊改○同八年八月十二日
日光在約○同年叙爵○同年十一月
二日病乞寄合○同七年十一月十二日
同寺

改醇

書書 見 改

享保十九年二月十八日初見。○寛保元年七月十八日小納戸。○延享二年西九月朔。○寛延四年七月十二日寄合。○宝暦二年六月廿八日小納戸。○同七年十二月廿七日家持。○同八年五月十二日小納戸。○同十年八月廿六日佐渡家持。○同十二年二月廿八日死

同寺

政成

大助

寶暦七年二月十八日初見。○同十二年同月八日家持。○同十三年七月廿二日西丸中書院番。○明和二年九月廿九日同寺。

政盛

三郎左衛門

安永政盛

昭和二年十二月三日養子家督○安永
八年十二月六日書院番○同六年
八月十六日病歿○天保元年六月十三
日死同寺

政嗣

岩次郎

安田中七郎信貞幹二男

天保元年九月七日養子家督○同
年正月之初見○同年九月朔日死
二十二歳同寺

政成

圖書

群芳

實山村清三郎長教三男

天保四年十二月六日吉子夜生○實政

七年四月女○柔術上質足存於物○同九

年七月女○日馬川渡上質同月女八日

令之及

廣育院殿

素鴻

孫原姓

高百儀十人校打

家紋

五三三相
丹首 居箱蓋為
母首 居箱蓋為
左首 居箱蓋為

田原又七郎忠綱平代官侍氏於左備

忠重孫素鴻左近宗勝二男

半右衛門

九源寺

新右衛門

宗忠

以曆三年三月十八日吉子夜生○實政
燒失○月○山馬敷多怪毒也○七十年上

余療治。○寬文五年十月新親下出
出馬醫役。○貞享四年十二月後役人
出城女。○小當信。○元祿七年十月其
出馬醫役。○宝永二年十月女古死六
十八歳。○中天然院矣。

御恒

半右衛門 辰之助 三郎左衛門
実同姓左近宗次男

元祿二年八月己酉養子。○同五年月
十日初見。○同十二年十二月乙酉教令
二十有物。○宝永二年十二月女古死
○享保九年八月十日字物所用同
八月令乙酉之物。○同十年六月二日
表出右筆。○同十二年五月十日
一回出右筆。○同年六月十日
○同十三年十月十日
○同十九年八月九日表出右筆

組代○同女年九月十七日死六十年日

寺

有徳院殿中代系孫の西屋風色紙に於て

書事考し同平生和歌等心掛し者月

筆江相贈し者右に色紙命せし之

と云ふ一杉平左近将監と云ふ吟味と云ふ

右某のに作月と云ふ書事考しと云ふ時彼等

今二枚と仰い徳物持介思方と仰い

ゆふ月神字本お徳房上巻と云ふ方家命

徳房上巻と云ふ書事考しと云ふ以後の例と云ふ

石お成と云ふと云ふ山屋等早百俵と云ふ於今

五百俵十人扶持と云ふ奥勤格有夜作月

ら

御保

采女

幸之助

享保十四年閏九月廿八日初見○同女年

十二月二日安堵○元文元年十二月二日

表出若筆。○同元年八月十二日死。年七。氣
同守。又。並。方。死。

那晴

九原七

字。青。那。恒。言。

元文五年十二月。二。養。子。家。終。○死
享三年九月十二日。半。人。組。○寛延元
年十月廿五日。病。死。○安永七年十二

月十二日。致。仕。○天保六年三月廿七日。死
享八年。同。寺。

敬那

保次郎

安永七年十二月十二日。家。終。○同九年
正月廿二日。初。死。○寛政二年八月十二日
死。享十七年。同。寺。

宗英

益吉郎

寛政三年五月三日庚子同日

九月廿八日初見

常憲院殿冲業扇紙 年月孫氏

東照文治代

業嶋

高二百石

藤原姓

家紋

竹丸花菱
丸内矢筈

将野和泉守光信上総國業嶋村

修之助業嶋之次光信末孫業嶋

道嶋法眼宗道留

助左衛門

段江可楨

親義

始伴建輝宗之任後小幡隆興子氏

照之房之小田原没落之後可楨氏

是より者く是津聰

東照天皇河より移居此方今在中山勘
解由より一同此方出武州多摩郡より月音
石より勘解由方機、三百石宛御より
○奥州陣仕を勇力と云はれ○伊豆
改宗方、初より上使。○
台徳院殿津代と出馬醫政。○元和元
年五月女より死後若し萬隆寺葬

香宗

孫六郎

実約井左近香法二男

台徳院殿香宗別田原津持より時十八歳
より仕奉り此所牧より麻出るとす
て上置より浦入簾多々として其麻と
物入。○大坂あな方の陣仕奉り落城の
別天王寺表より甲士並御卒九二人

上河丸首級

右德院殿清實公檢事在出陣の時

多依酒多丸蒙作求皆

大德院殿

右有院殿清代出馬醫級。寛文十三年

六月死回寺

宗次

孫六郎

次西園

宗次 五重

宗信 五重

寛文十三年七月十二日家持出馬醫級

○元禄十年改任○同十二年十二月十日

死回寺

宗信

孫六

孫助

源五郎

元禄十年改任○同十四年出馬醫級

○宝永三年二月十日死回寺

親徳

助左衛門

孫三郎

元永三年五月乙亥家督○享保九年
八月丁未甲府勤番同九年九月廿八日
暇初見○延享元年五月乙酉甲府
大泉寺葬

親茂

孫六

玄吉

曾著家傳推吉ノ男
元文元年十二月養子○延享元年
十二月廿二日家督甲府勤番○宝曆
六年七月朔日弟府初見○昭和四年
七月八日死享年六歳同寺

親睦

右三進

明和四年閏九月日守家督甲府勤王
○寛政十一年二月十八日致仕

親正

五百石

寛政十一年三月十八日家督甲府勤王

津田清成

素原

高五百石或給古儀

菅原姓

家紋 丸三葉梅

右大臣道真男氏津田補送殖後

胤大臣國任人

盛通

勘玄傳

明和中綱之秀後子仁秀後滅亡
の後大和守之取城之申多因情事

扶助二百五十石。大坂西陣伏見。○
元和元年五月方。於道明寺表用
情。子。各一。毒。陰。其。院。松。倉。十。石。表。
。死。

盛友

華三傳

東傳。○。中。多。家。滅。亡。之。後。浪。人。○
寛文元年。系。於。下。出。九。原
米。百。五。十。俵。子。人。持。持。約。り。

淨光院殿。附。祿。田。由。殿。○。○。由。領。氏。○
延宝元年。八月。十一。日。死。六。十。七。歳。小
石。川。心。光。寺。○。表。於。

昌盛

華三傳

延宝元年。六月。廿。七。日。表。於。西。領。氏。○
同。八。年。五。月。八。日。由。本。丸。由。伏。由。侍。元。表。
以。加。扶。百。五。十。俵。○。元。禄。七。年。十。月。九。日。

沖基不用人加授三百俵。同八年十月廿二日死。百十九歳。同寺。

盛具

勳三信

実子 盛友 男

元禄八年十二月十二日。喜久子家。同八年七月。之。唐米五百俵。米地。惣領。之。五百石。之。口。○宝永三年。

四月。又。日。山。書。院。也。○同七年十二月廿二日。小。菅。信。○元文三年二月。又。日。死。百十九歳。同寺。

盛好

善友 寺

実子 盛好 男

元禄八年十二月十二日。之。頼。善。友。子。○宝永六年。山。小。菅。組。○享保八年十月十八日。死。

辛酉年

盛負

孫子助

孫子助 往宅寺長生寺 子子

元文三年八月四日安徳寺○寛保元年
十月廿八日西丸書院為○宝曆三年
十月廿八日進物出為○同十年七月廿
一日半人氏○同十三年九月廿八日宵

分○同十四年八月十日被作楊門
出普徳寺用同年同十二月十日獲定
三枚時按二○昭和三年五月十日
寺嶺家沙下向寺用○同四年十月
廿七日獲定時按三○同八年三月
十日託寺用掛○同年三月十日
出孫子出取締寺用掛○同月廿九日
姫去出信綱寺用五枚○同年六月
西丸表表出信徳寺用掛○同六年上

装束不明正院也立安不立建法利。
同年七月十八日長崎在約。○同年
十二月十六日叙青經也也。○同年十二
月廿日由自月勤役中上野山務先任
冲靈也也書法也利相勤月廢令
五枚時後三。○同三年七月朔日牛崎
也後也也法也。○同也年五月十五日
賜色紙子十反也也也、法上。○同月
十七日也也事也也。○同也年七月八日

也勤定也也。○同六年五月二日
博信院殿十七日法也也法事法用同
年六月十七日時後三。○同七年同七月
晦日法定書掛。○同年十二月十七日
任豫也改。○同月廿六日。月也也也
月時後三。○同八年三月廿九日
岩有院殿百圓法也也法事法用
同月十五時後三。○同年十月廿七日
也事也也也也也也也也也也也也也

百あふ下集上七條其約勅叙之旨存傳
令あふ山光延一〇同九年五月廿七
月あふ之骨形、有瘡灸時後也。〇同
年十月廿九、
右徳院殿百あふ山光延也。法事、御用
日十年正月晦、瘡灸時後三〇天
明二年五月廿日、送中集約急叙。〇同
三年七月三、
心親院殿十三回也。法事、御用同

年八月廿七、瘡灸時後三〇同六年
九月廿八日、出務、方送中、方加之。〇同
年同十月十三、同集約、并伊豆國門、
山光延御用。〇同年五月廿六、出務
人あふ御用、五叙。〇同七年正月十七日
玉海、左宮、山光延御用、瘡灸時後
三、御用、二叙。〇同月十九、権姫君、
入樂、法用。〇同年八月二、同集約、
伊豆國門、山光延御用、瘡灸時後

日○同年七月日長崎表法用向
長崎表法用向
○同年十月日飛脚回金孫主簿出買
上米一件
○同年十一月日
日飛脚回金孫主簿印之
○同年十二月日
表法用向
○

同年六月日
○同年八月日
○同年十一月日
○同年十二月日
○同年正月日
○同年二月日
○同年三月日
○同年四月日
○同年五月日
○同年六月日
○同年七月日
○同年八月日
○同年九月日
○同年十月日
○同年十一月日
○同年十二月日

時後三〇同年五月廿二日此公万石位
上之西之系德清用〇寛政三年八月
十七日清用之成有之沖前、云右〇同
年九月四日同日〇同日年同日二月
朔、徳表系徳先建古出月淺有之
分程又書、云右三書有〇同年十一
月之、万石以上徳表、云右之、分相傳教
習、云右、武術、武術、英表、中、之、同、云、右、
武、飛、云、右、成、者、有、之、云、右、三、書、出、右、相

貞正、云、右、集、下、右、有、〇、同、年、十、二、月、廿、四、日、
亦、見、記、清、用、骨、形、云、右、時、後、三、〇、同、九、年、
上、月、九、日、云、右、海、道、宿、之、取、調、骨、形、云、右、
時、後、三、〇、同、十、年、三、月、二、日、西、九、云、右、
居

盛倫

長生坊 主計 文次郎

元和五年六月十日 年養子〇同志

亥、相、前、云、右、須、慶、三、男

十二月八日初見。○安永五年十二月十
 九日小姓組○天保四年五月十日小
 十人氏同○同七年二月十七日目月○
 寬政元年十一月十日左連川左房
 智古立不判之見布清用出師同年
 十二月初日陽陽陽○同二年三月十三日
 苗林琉球人系府自清用五板○同年
 九月上日水方道方定掛掛○同年十二
 月十日琉琉球人系府清用儀賞時板三
 同三年六月八日日化掛○同年七
 月女之小金原出廉特清用五板板○同
 八年四月女之上水方道方掛清免
 騎馬定掛○同年十月女日
 若若清京系清用用○同六年七月十
 日
 文昭院殿清靈屋向出院儀出用○同
 年十月六日清京系出用儀賞時板三
 ○同七年九月二日出靈屋出院儀出用

鎌令五枚時後二〇同年十二月十二日
見化少用出穂有鎌令之枚〇同月廿
五日新出穂也。

盛典

悠之助 祐
友之助

二男惣次

實及七年十二月廿八日二男惣次

常憲院

素原

高平儀五人杖打

藤原姓

家紋 丸梅

素原善玄清昌盛二男

盛明

侍彦

元祿八年十一月廿九日新出
降光院殿出侍彦
抄下〇宝永二年九月七日出侍組

同六年三月廿二日百小菅信隆○正徳元年
六月廿日死早稲小石川心光寺葬

盛直

半助

正徳元年九月二日赤松○享保元年
十二月隨性院殿侍○同九年八月
廿二日死年七集同子

盛利

平吉清

享保九年二月甲寅家侍○延享元
年十二月十日○元徳元年○宝曆八年
十二月十八日勘定○同十二年八月二日
大坂市飛騨町○明和九年十月廿日
元方山令家侍○安永三年二月廿二
日死年三集同子

盛方

平玄清

乙亥郎

昭和九年六月十日初見。安永二年
 二月家譜。同日年二月。中勘定。不書
 物清用。同八年。正月。其。書。初。清。用
 清。允。德。德。十。段。○同七年。四月。令。出。勘
 定。○同八年。八月。相。列。務。長。公。備。五
 英。德。之。社。出。書。信。目。論。見。清。用。出。勘。日

十月。勘。府。○同十年。二月。同。出。書。信
 清。用。出。勘。天。元。年。八月。勘。府。讓。令
 二。枚。○同六年。十二月。國。東。筋。英。任。是
 出。川。出。書。信。清。用。出。勘。同七年
 二月。讓。令。二。枚。附。跋。二。○同八年。七月
 女。白。信。水。勘。定。年。約。○寬。政。二。年。三
 月。女。白。同。不。勘。定。年。約。○同七年。信。水。勘
 定。年。約。八月。女。白。出。勘。九。半。人。組。○

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

右徳院殿沖代

熊谷

平姓

高百五平儀

家紋

九月坊、文字
虎若三坊

先祖不詳

助左衛門

直久

寛永八年正月廿九日

大猷院殿沖代病卒、有少儀〇死

久兼

武吉信

一京

正保元年五月十二日少院○寛文二
年六月十九日少院組改加秩あり
百五十年儀言○延宝七年五月九日
少院少院○貞享元年十二月十八日
改任○同三年十二月廿八日死小日向
中法寺葬

久作

武吉信

一京

貞享元年十二月十八日葬○同三
年十月廿九日居士見由京院為○
宝永五年十二月廿九日少院組改○
同七年二月廿九日死牛久盛院
葬

久長

武吉傳

初

八之助

中由隠居なり

安田定小右衛門 祿長之男

享永正元年十一月十八日薨。○同七年

五月廿七日薨。○享保三年七月二

二日薨。○同七年十月六日薨。○享

保元年

榮之

八之助

享保七年十二月廿八日薨。○寛

保元年十二月二日薨。○昭和

八年八月十七日薨。○同

直義

大助

友六郎

正和八年十月日字盛法寺山寺通。

直具

栄三郎

実栄之三男

天保五年十二月廿日未及子。○實茂

元年四月日字山寺通具之男

極田御殿



惣省

高百俵之技持

平姓

森致

九月橘丸木也

惣省次郎左衛門直行寺原玄彦氏

子出(後浪人)肥前國下津(直行)

惣次

直法

直法

元禄十二年四月廿日極田御殿

勅定、大宰府原米百俵とゆふ。
同平五年甲州川除幕約仮級。○同
十六年二月廿二日加授之。持持下
甲府市被授幕約。○同年十二月粟
市代。○富永二年同月小當信。○
同八年十二月十九日。市代被授幕約。○
横田市代。○市代是信。○同日七
年三月二日孫福。○享保元年十月
市代。○同三年四月。澤系院殿。○
近所用。○同年十月。本德院殿。○
○享保八年五月廿二日。小當信。○同
十二年十二月十一日。死。○同日。白米
奉所瑞。○寺地中。微笑院。○
後赤坂。○寺。○改葬。

貞定

十郎左衛門 次郎信房 次郎左衛門
生助

享保十三年三月九日。東。○同

十巳年十二月廿二日酉九火之毒也。同
十七年八月廿八日酉九火之毒也。是
享元年八月十日酉九火之毒也。○享元年
年七月十日巡見沛用同土年首
乃。西極。越前。能也。能。能。巡見。○安
永巳年七月十日酉九火之毒也。是
○同年八月十日死。七千七氣。淨也。

直次 查之助

享元年十二月十日酉九火之毒也。○是
和巳年三月十日酉九火之毒也。是
同年七月十日酉九火之毒也。○安
永巳年十月十日酉九火之毒也。○天
六月十日酉九火之毒也。○是

出九二白儀○同八年四月廿八日
涉匙○同年十二月九日法眼○同年
若憲院殿涉筆拜欣○寄食○夏
深二年六月二十行始若涉用○同三
年九月廿八日死六十八歲三田若林
寺之矣

直繁

玄与

初安店

玄直輝才德玄貞某二男

享深三年十二月二十夜涉若合同月
十月初見○同八年十月十日若若
生不病用○同九年九月涉之○同
女年十月九日涉若若○至曆四
年二月八日死六十一歲同与

直義

玄与

安茂

延享三年八月十日初見○宗曆四
 年五月三日赤松野合○昭和九年
 三月廿日日光内門之差添○同年九
 月二日隨自急院家出見添○安永元
 年十二月日光准所家出見添○同享
 九月朔日○同享年閏十二月十二日
 仕○寛政七年六月十八日死七十一歳
 同享

直英

安房

虎次郎

安永四年閏十二月十二日赤松野合○寛政
 三年十月三日赤松野合○同享
 仕○同享年六月十八日赤松野合○

其後...
 其後...
 其後...
 其後...
 其後...
 其後...
 其後...
 其後...
 其後...
 其後...

第憲院及御代

德澤 中氏後田
 言百平儀

後原姓 家紋 後三川

正城國の御土後田伴左衛門某水戸
 中納言殿、其後抱伴左衛門忠成仁等
 友政惣願

好昌 德江 善四郎 善三郎 自樂

宣永子年六月廿七日出之九西元

七条河内守藤原基成百歳。同七年正月十八日加授左大臣。西德三年正月八日少人城。有少事。高保十七年正月廿六日没。元文五年三月九日死。年百四。大運寺藏。

武英 後田仁左衛門

元禄年中水戸中納言殿徳政者

享保七年三月三日近習。宝曆二年七月八日没。同八年八月六日死。年百四。

清好 後次郎

享保十七年正月廿六日没。同安永二年十二月廿日死。表石筆。宝曆二年八月三日死。年百四。同二年

十一月十五日

若者附○安永八年四月十二日○
弟○同年十二月十二日○
弟○同年九月十八日○
同日

郡昌

善之丞

宝曆十三年九月廿八日

和二年二月十五日

東照文百又十回
○同年八月廿九日
八月

心親院殿
舊浪子板○安永八年二月
孝恭院殿
四月廿九日
八月父死同日○天保八年九月

後明院殿三浦清忠公法事六月同日
同日十九日齋戒五日。寛政四年四月
十一日御佛上院及物。同七年六月廿
九日平一氣同日。

古之

友次郎

日織之助

天保四年三月廿五日。寛政三年
三月廿五日。同九年三月廿五日。

九月十日表裏在筆。同七年六月
廿五日。同九年三月廿五日。同九年三月廿五日。

有徳院殿中代



徳余

友原姓

言二首名

家致

九月廿二日

紀伊殿在臣徳余次郎左衛門幸廣

書

茂雅

小野右衛門

友十郎

致仕 釋休

紀伊 実中村在臣某三男

享深元年八月号

長福若二九、入長長長、出進
為米地三百石、幼い、机書長文、所
左、つ、長長子、縁、多、い、名、〇、寛保
九年十二月、去、小納戸、同月十九、如、
〇元文三年六月、女、

竹代、若、小納戸、〇寛保二年二月
廿八日、出、苗、子、所、為、〇寛延二年二月
十六、辭、免、所、令、〇同年七月廿九、
被、任、長、老、科、三、百、俵、〇宝曆十一年

七月十八日、死、八十二歳、去、文、保、法、長
寺、發

茂英

登 寺為郎

実珍本二郎、長三男

享保七年十二月、養子、〇同八年六月
十、初、見、〇同十三年八月十八日、出、納、戸
〇同年十二月廿、布衣、〇元文三年四

月廿九日養母方叔母年日下孫一郎成
塔原流寺、出願作有、是將王馬改
易文作月、主之、成延有、續二月六日
通是扣同年八月廿日沙之。○寛延
二年七月廿九日、森修。○享曆元年
癸未。○同年七月十日、寄合。○同
七年五月廿日、出院。○同八年正月
十日、死。○千宗、同。

茂改

丹後守 吉原氏 養核子 是書
万三册

延享元年九月十八日初見。○同四年
十二月廿六日、西九小納戸。○同年四月
廿八日、布衣。○寛延元年八月廿八日、
小姓。○同二年十二月十八日、叔壽。○享曆
元年、同六月、同。

有徳院殿亮清ノ月落髪。同年七月
 月十二日寄合。同三年六月廿五日西
 九小納戸。同六年五月跡射作月
 九日。同九年四月廿五日。同十年
 上院御物。同年同五月十九日。同
 九年同月十六日。同七年同月
 十九日。同九年同月十九日。同八年同月
 廿七日。同十年同月十九日。同
 九年。同十一年十月十八日。同九年。同

十二年十二月十八日

若君附。安永四年十二月廿四日。同
 年。同九年七月廿四日。同
 年。同九年。

茂周

若三郎

小野右衛門 弁右衛門 宗女

實遠ノ心源玄清京後三男

昭和三年十二月廿一日葬養子○同
四年三月十九日初見○安永八年十
月八日家譜○同六年十月十日
小納戸同年十二月十八日布衣○同八
年十二月十日出佐与多村同
时後三〇寛政二年十月十八日涉佐
与多村同日同日後三〇同八年
十月十三日奥々番

茂快

國彦

天明八年六月廿一日初見○寛政二
年七月十七日死年某同

茂言

弥吉

寛政二年九月十八日三男惣領○同

七年八月三日初見

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

東照宮

朽木

源姓

長及四目名
水子桐

高宮寺古七様茶

宇美安宮より古作木を所利安
是徳田男道口信徳近江國
高宮郡朽木之庄後道園大氏
地一畝号一朽木之福七
信徳十代氏如補植徳園

貞徳

官内左補 初元

天正三年四月五日江刺より那

俣山より一宮河内守とて今越え
三十三家

河内守 初元 信濃守

元徳

後任牧師

永禄七年四月是利義教昭公

の事也國守江止宿の時と好義
深敷とて急死行二方とて
獄田信長又は早より如勝と
とる向味方とて一宮河内守
とほの軍兵と逃げた有る余
級義教昭公とて一宮河内守
北右之の山眼指とて一宮河内
年徳田信長越前守今河内守
少くは河内守とて長久より

如との御期秀名御とく上座と
東照文にも信長の御殿とくまを
率とくまを御とく上座陣の時御
ふ中乃御地御御のり一之御
けとるると申御成事とく御事
其御信長朽木谷通行と信と
軍と御事とく谷と御の事
しとく御事とく御事と
らと御成事とく御事と

叙爵河内守○慶長六年御事
系と御の時

東照官

右御院殿と御湯泊令と御御佐和
の御院と御ひ御御領の地と御
御事と御事と御事と御事と御事と
御事と御事と御事と御事と御事と
御事と御事と御事と御事と御事と
御事と御事と御事と御事と御事と
御事と御事と御事と御事と御事と
御事と御事と御事と御事と御事と

○同年冬に府より

名徳に敬し河前より近侍しつるは是

のより清純の作と云ふ○時月

改仕清純辛酉年名徳に敬しと云ふ○定水八

年二月十六日病氣を尋く

と云ふ方と云ふ補入来○日九年

八月廿九日死す四葉に別朽来

貞重寺より葬

宣旨

と云ふ補入河前

改仕と云ふ

初之世宣旨 元年六月新嘗のち板取

河前より河前より河前より

久事利治の事河前より

河前より河前より河前より

河前より河前より河前より

同平年六月廿日死七拾日葬同日
卒年五十九

監物

初太松

定朝

初夏彦

寛文八年十二月十四日家督交代
令の家水六年三月十四日朽木
で死年十八歳日卒年五十九

水 初海太郎

周徳

家水六年四月十二日家督交代
父公の四月十八日初父の老を死
常憲院殿より直井の刀
父殿院殿より長徳の刀は故より病
しく定府の喜保八年二月廿
死年五十九日卒年五十九

象傳

教焉

初定親

實定朝二男

享保七年六月廿九日
九月二十日
閏月初三日
江戶行末少死

皇女

朝傳

監物

ゆき松

湯島

享保八年
今日
年
年
泉

道徳

権徳 功徳

徳位

明和元年八月...
天明元年十二月...
同日...
同日...
同日...

徳

去庫物 功徳

天明七年十二月...
天明八年...
同日...

東照宮神代



朽木

源姓

享和二年松石

及 日向月信五之桐
九曜

朽木信濃守元徳三男

世系

友紹

享和七年四月十日卯刻の時
より細川氏中より忠貞の屋敷に
入之 縁より次而十七年八月十日卯刻の時

在りし〇元和元年大坂夏津陣
には忠興ははつし七月七日降下り
し名を級と爲り〇同日來し百
十百石のれ中書屋番百石
年月の加秩百石名をくし石と未
知しゆし寛文二年七月廿七日
京中御裁〇日九年八月十三日
五徳院〇年月〇書院あ組〇月
年十二月六日父行舟より幼子に

十五石の
石名多し名をくし子に百石程は
名をくし〇名をくし〇名をくし〇名をくし〇
名〇寛文二年八月八日死す
歳をくし名をくし〇名をくし〇

〇年月の
大坂院撤清名をくし名をくし

山利

海文多信

明徳

徳宗

嘉保元年二月六日有詔。○宣延三
年二月八日有詔。○宣延十
一年正月有詔。○宣延二十

徳宗

修記

卷之三

實編葉行詔与恒通三男

之文治元年九月十日有詔。○

宣延元年二月六日有詔。○

宣延二年二月六日有詔。○

宣延三年九月十日有詔。○

并

真宗

修記

英日姓市丸為宣延三男

寛政九年十一月五日
日本文字
日本文字
日本文字

修理 初裁之席

榮徳

寛政九年十一月五日

寛政九年十一月五日
天保二年六月
天保二年七月
天保二年十月

甲左席

賢徳

寛政九年十一月五日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

敬有完散

朽木

源姓

高六平石

家及石之桐九曜
角四目信

朽木氏幼補植總二曾

因防与 初子帝 集人

則繼

植武

和泉

治仕澤

寛文元 万治四年二月廿八日見伊織与植

昌らむ知二千石の實々七年
二月官中奥平性○日十年
十二月十八日叙爵和泉守○日十一
年十月廿百宗性○日十三年
二月政旨書初の四指紙紙○卷五
五年十月廿百宗性合兵共取○日腰
物紙紙○日六年二月廿九日
道を紙○日年二月政旨宗性組
為紙紙の初はえのわー○日七

有十八日伊豫あまの宗代○日
羽織と物○日年十月廿八日柳子
多行ある紙○日八年十月八日
最者院殿表所の後居初志
○天和元年九月廿九日
徳松志知年のうちを後居初志
山梨合兵共取○日加指紙紙合
心宗性○日年二月廿百宗性○日

年八月廿七日初録入五條の日記
沖原の書簡の次は九月
二年九月二日星の地震の日記
分りつゝの日記の初〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月

十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月
十日初録の日記〇日年九月

二百ある湯口は又白米色水の心臓病
 の故○同文米白米色水七日病光○日
 六年十二月十二日致仕○日九年
 十二月七日湯醫丹園を脱とて
 上意と事あり唐津焼中常統と
 ゆふ○日十年二月十二日死七拾
 六歳東山雲山寺小葬

直徳

和泉守 油江市郎之膳
 信濃守

室町六年十月文白初九○喜保
 六年十二月十二日致仕○日八
 年四月六日大僧尼○日年七月
 翌日別流致とる○日年
 十二月八日布衣○日喜保年四月

皇元二一依世〇日字年九月廿
八日中書院書院〇日字年十二月廿
叙爵位遷書〇日字年十月廿日
太皇太后〇慶亨二年六月廿日
少孫少孫同日字年

紀綱

初紀綱

大隅守 初海部卿之職
和泉守 周防守

嘉保于二年二月廿日初人〇延
嘉二年八月廿日初書院會合〇日
年七月廿日初書院〇日字年十二月
十九日布衣〇實定元年七月廿日
平社理書院〇日字年十二月十八日叙
爵和泉守〇實曆二年七月廿日
中書院書院〇日字年十月廿日
清明院殿書院〇日字年二月廿日

江州府江邊の江守府殿に

治明に成りし時後二年の月年日

月日卯の酉九初〇月十二年有十日

江州府の邊の殿の月年十日

印

若菜屋殿江州府の所へ殿に成り〇

明和二年有十日病先高〇〇

縁起法〇月五年八月十日成は〇

日九年有月九日死〇年〇歳日守

葬

長

信濃守 江守府 主殿

信濃守 相承守

宝曆十二年二月又日〇月

年九月六日

若菜屋殿の所へ江守府人〇〇〇〇
年〇〇〇〇年十二月又日〇〇〇

藏書院殿御代



朽木

源姓

高七百石

家茂

又見自伝
言刻相

朽木家伝少納言信成

市左衛門

年次
市心

元徳

万治二年十二月廿百石知七百石

○同月廿七日

教有院殿上初見。寛文六年十二月

日不知此書院者。元禄六年十月

十日死。年十七。奉天。德寺。地。月。廿。日。

院上英

尚儀

山味与 初体命 希世

元禄六年十二月十日家傳。同七年

高智日月

又月廿七日相。名。五。苗。同。子。同。月。

○同月廿七日。同。月。廿。九。日。忠。清。戶。

二年十月廿六日。同。月。廿。九。日。忠。清。戶。

三月十日。同。月。廿。九。日。忠。清。戶。

廿廿五日。同。月。廿。九。日。忠。清。戶。

九附。同。月。廿。九。日。忠。清。戶。

廿九日。同。月。廿。九。日。忠。清。戶。

廿九日。同。月。廿。九。日。忠。清。戶。

廿九日。同。月。廿。九。日。忠。清。戶。

同子十二月廿日叙爵山城守○延享
二年七月乃召免宗命河原^五同
年十二月六日改任三位左大臣兼左
○宝曆六年二月十七日死八十九
其泉岳寺葬

又宗凡集 幼少勵

基德

宝曆六年三月廿日叙小姓组○(皇三)

年十二月官家叙小官德○明
和元年十一月有死八十九之采葬地
同

寛德

寶曆六年十二月廿日叙

市左衛門 幼文十郎

延享二年二月曾叙宗子○寛
延之五十二月廿日^弟叙宗子○(皇三)
十年二月廿日叙宗子○同十子

八月三日西元勅○同十二年十一月十

日

後院院政附○同年十二月廿七日家

督○安永二年十一月廿日死又十

又葬其地同

又葬其地

初葬其地

徳信

安永二年十二月廿七日家督○同

三月廿五初七日

三年四月廿日家督○安永

三年九月十日武術 上院洋船○

同七年三月十二日同領次○同年十

二月十七日布衣

綱利

半了也

寛政七年三月十五日初見

○寛文三年九月廿日 禁裏 院中

○送之奉行 ○同三年四月廿日

禁裏送之奉行 清浄後清浄紀

之 清浄奉行の清浄紙二斗六斗

化之紙紙を箱詰成 ○同三年十月廿日

奉清浄所送官成紙 清浄後同

口破若老箱詰成 ○同三年八月廿日

法皇清浄所送官成紙 清浄後 口奉

○同三年八月廿日 法皇清浄所送官成紙

清浄後 清浄 又紙を箱詰成 ○同

三年八月廿日 新院清浄所送官成紙

清浄後若老 和子百首 又紙を箱

詰成 清浄所送官成紙 ○同三年六月

月十三日清浄所送官成紙 上意奉行

復更令清浄後清浄 ○同三年二月

月十日清浄所送官成紙 清浄後 口奉

法皇清浄所送官成紙 清浄後 口奉

保十二年七月十二日清塔寺大社寺及
○延享二年正月十日清塔寺納○月
二年二月廿三日老元高合○月二年
二月廿六日清塔寺老元高合○月二年
二年二月廿六日清塔寺老元高合○月二年

尹綱

保元元年 壬午 未馬

保元元年 壬午 未馬

享保元年十二月十九日養子○月二年
二月廿六日初見○月十二年六月廿六日初見
任清塔寺納○延享二年二月廿六日初見
信○延享二年七月二十日初見十七年
泉兵衛寺納

真綱

朝貢

享保元年七月八日初見○月七年二月

十日... 安永元年... 十日... 安永元年... 十日... 安永元年... 十日... 安永元年... 十日... 安永元年...

門纏

吉原

安永元年... 十日... 安永元年... 十日... 安永元年... 十日... 安永元年... 十日... 安永元年...

左京 教員 改

全纏

安永九年... 十日... 安永九年... 十日... 安永九年... 十日... 安永九年... 十日... 安永九年...



寛政之辛未七月七日...
 正月...
 服之...
 十月...
 十一月...
 十二月...

得



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, arranged in vertical columns. The text is extremely faint and difficult to decipher.

